

《フィジカルアセスメントに活かす》
**看護のための
はじめてのエコー**

藤井徹也／野々山孝志＝編
定価：3300円（本体3000円＋税10%）
医学書院 ☎03-3817-5600



在宅での活用方法や利点が分かった！

これからの在宅医療・看護・介護を考える会代表／訪問看護認定看護師／特定行為研修終了（水分・栄養）

野崎加世子

訪問看護師として30年余り在宅医療に携わってきました。2006年には熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる訪問看護師を目指して認定看護資格を取得しました。

2018年に県全体での研修会を開催することになり、講師として来ていただいたのが、『看護のためのはじめてのエコー』を編集された藤井先生方でした。

2018年に県全体での研修会を開催することになり、講師として来ていただいたのが、『看護のためのはじめてのエコー』を編集された藤井先生方でした。

在宅で活用できる

超音波機器の研修での経験

研修中に訪問看護師たちの興味を引いたのが、超音波機器を用いた褥瘡の管理や内臓・血管の異常についての状態把握と、経時的変化が画像データで残せることでした。今まで超音波検査は、医師や検査技師が行うものと理解していた私たちは、皮膚表面からの観察だけでは分からない深部組織損傷（DTI）のチェックなどを経験し、正しい評価項目が

自分でできたことに感激し、衝撃の研修となりました。その他、尿量測定や便の貯留、脱水における観察などにも適応できることを教えていただき、在宅での医療・看護における活用方法が広がることを知りました。

『看護のためのはじめてのエコー』から何を学ぶか

今回、本書を読んで思ったのは「難しくない、分かりやすい」ということです。未知の分野の超音波機器を用いた看護が自分にできるだろうかと不安を持つ多くの看護師が、まずは学んでみよう、初心者でもその気持ちにさせてくれると実感しました。

第1章では、超音波検査の原理と看護師がどのように活用するのか等、超音波機器の予備知識を教えてくれる内容です。

第2章は、超音波機器の名称や付属機器の使い方・原理などの基本の説明があります。データの読み取りの解説では、今まで単に画像としてしか見ていませんでしたが、そこに実践に生かせる情報が網羅されていたことを

知りました。

第3～4章は、人間の各臓器を超音波機器で見た場合の画像上の位置や見方について学ぶことができるようになっていきます。最終章で、実際の疾患と画像検査によるアセスメント方法などが解説してあります。また、各章に臓器ごとの画像の見方などの観察時のWeb動画も付いており、より学びを深められるようになっていきます。

私たち訪問看護師が単独で看護ケアする場合、超音波機器を使うと、膀胱内の尿量測定や直腸内の便の観察、褥瘡の管理などを日々行え、異常の早期発見にもつながり、大変有効です。また、観察した箇所を画像化して客観的にアセスメントすることで、利用者や家族、医師、多職種が今後の生活支援を考えるための情報を共有できます。ベッドサイドで簡便に行えてリアルタイムに評価でき、豊富で有用な情報を得られるなど、在宅においても利点が多い検査方法だと分かりました。

超音波検査を用いてフィジカルアセスメントを適切に行い、看護ケアにつなげることは、利用者に地域で安心して療養していただくだけでなく、地域包括ケアシステムの進化を後押しするものになると考えます。ぜひ多くの訪問看護師の仲間にも読んでいただきたい本です。